

5月3日のレッスン

ヨナの誤った憐れみ

主要聖句：「主は言われた。『あなたは、この植物を育てたわけでも、育てたわけでもないのに、それを気にかけている。それは一夜にして生え、一夜にして枯れた。それなのに、わたしがニネベという大いなる町を気にかけないはずがあるだろうか。

ヨナ書 4:10,11

関連聖句：

ヨナ書 3:1-5; 4:1-11

ニネベは、イスラエルの敵の一つであるアッシリア帝国の首都であった（列王記下19:36）。神は預言者ヨナに、ニネベの人々の悪行ゆえに、40日後に彼らを滅ぼすと告げるよう命じられた。ヨナの宣言を聞いた王は、「人も獣も」食事をせず、水も飲まず、皆が「神に向かって大声で叫ぶ」よう布告した。すると、「彼らはその悪の道から立ち返った。神は心を改め、彼らに脅かしていた滅びをもたらさなかった。」ヨナ書 1:2; 3:1-10

しかし、このことに「ヨナはひどく不快に思い、激しく怒った」。ヨナは神に言った。「私は、あなたが恵み深く、あわれみ深く、怒るのを遅くし、大いなる慈しみを持ち、災いを下すことを思い直される神であることを知っていました。主よ、どうか私の命をお取りください。生きるよりは死

ぬほうがましです。」すると主は言われた。「怒るのは正しいことか。」ヨナ書4章1-4節

おそらくヨナは、数世代にわたりアッシリア人が自分の民に対して行った残虐な扱いを心に留めていたのだろう。彼は裁きが下され、この国が滅ぼされるのを切望していたのかもしれない。(イザヤ書第36章)。大いに失望した預言者は、町を去った。彼は近くの丘の中腹に腰を下ろし、自分で作った小屋の陰に身を隠して、「この町がどうなるか」を見守った。(ヨナ書4:5)

すると、「神はヨナの上に日陰となるように」ひょうたんを「生えさせ」、預言者は「大いに喜んだ」。しかし、翌朝、神がまた用意された虫が、そのひょうたんを食い荒らした。太陽が昇ると、それは「ヨナの頭に照りつけ、彼は……心の中で死にたいと願った」。ヨナ書4章6-8節

神はヨナに言われた。「そのひょうたんがなくなったからといって、善を行うことがあなたにとって不快なのか。」「あなたは、労せずして育てたわけでもない、一夜の産物であり、一夜のうちに滅びたひょうたんを憐れんだ。それなのに、私がニネベを憐れんではいけないというのか。」(ヨナ書4:9-11) 「一夜の子」という表現は、何か「はかない」性質を持つことを指す際に用いられた。主は、植物に対するヨナの関心と憐れみと、ニネベの人々に対するそれとの間の大きな対比を指摘しておられたのである。

ヨナは、アッシリア人が過去に犯した悪行に対する復讐を望んでいたが、それゆえに、彼らが今や神の前で悔い改めているという事実を見失ってい

た。神はニネベの人々の行い、すなわち「彼らがその悪しき道から立ち返り」、生活と行いを改めたことをご覧になった。それこそが、主を思い直させた理由であった。

イエスは、ヨナ書にあるこの記述の真実性と、ニネベの人々が真に悔い改めたこと（ ）を確証されました。（ルカ11:29-32） この箇所**の31節と32節**は、ニネベの人々を含むすべての死者が、将来の地上の王国において復活することを証明しています。その時、イエスの初臨の際にイエスを批判し迫害した者たちに対する裁きは、イエスの説教や奇跡を見たことも聞いたこともない者たちに対する裁きよりも、厳しいものとなるでしょう。私たちへの教訓：与えられた知識には責任が伴うのです。ルカ**12:48**